

日本環境教育学会「原発事故後の福島を考える」プロジェクト 第4次調査

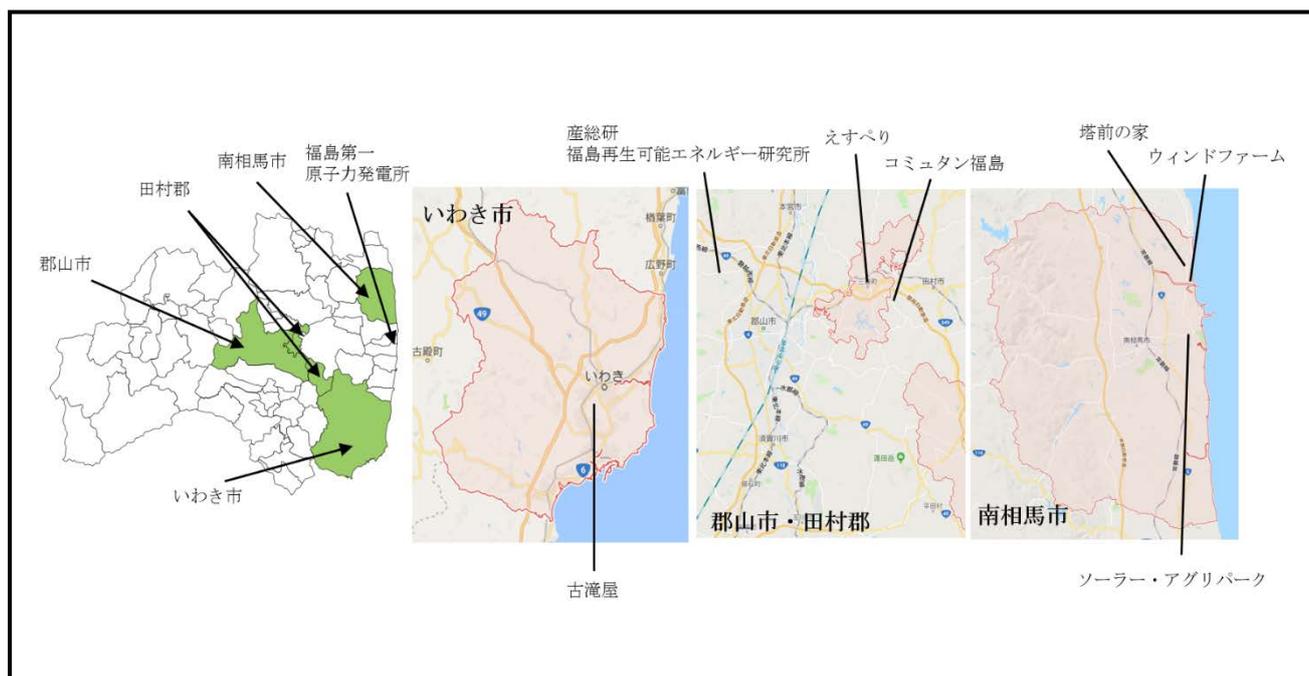
報告書

- 1) 日 時：2018年1月12日（金）～14日（日）
- 2) 場 所：福島県いわき市常磐湯本町、福島県郡山市街池台、福島県田村郡三春町、福島県南相馬市鹿島区, 原町区
- 3) 参加者：11名

4) 概 要

本調査は、毎年2回の頻度で最低5年間継続するとしていた福島訪問調査の第4次調査であり、3日間の日程で行った。1日目は、いわき市のいわき湯本温泉の老舗旅館経営者にお話を伺った後、郡山市にて産業総合研究所福島再生可能エネルギー研究所を訪問し、同じく市内で川俣町からの避難者の方にお話を聞いた。2日目は、田村郡にて福島原発刑事告訴団団長、元村議会議員、産直販売所経営者の3件の聞き取りを行った後、コミュニタン福島（福島環境創造センター交流棟）を見学した。その後、南相馬市の農家民泊に移動し、お話を伺った。3日目は、南相馬市沿岸に位置する万葉の里風力発電所を見学し、最後に南相馬市ソーラー・アグリパークへの聞き取りを行った。

5) 訪問地 MAP



16:30～17:30 避難者聞き取り（福島県郡山市桑野町2丁目33-9）



米倉さん



聞き取りの様子

米倉啓二さん（川俣町山木屋地区から郡山市への避難者）から、震災前の暮らしや震災時の影響、避難先での生活の様子について伺った。スイスへの交流事業への参加をきっかけに牧場を始め、長年悠々自適に酪農を営んでいたそうだ。震災が発生し福島原発の爆発音が聞こえた瞬間、「世の中のおわりだ」と思ったという。避難住宅に移り住むと共に生活は一変し、度重なる親族や友人の死も相次ぐなど、震災後は絶え間ない精神的苦痛を感じているという。事故後の政府や東京電力の対応、さらにはマスコミの報道は被災者に寄り添っているとは到底言い難く、多くの疑問が残ると仰られた。

1月13日（土）2日目

9:30～10:30 福島原発刑事訴訟告訴団聞き取り（福島県田村郡三春町）



武藤さん



聞き取りの様子

武藤類子さん（福島原発告訴団団長）から、震災時の状況や告訴に至った経緯をお話頂いた。1986年のチェルノブイリ原発事故をきっかけに原発に関心を持つようになり、原発の増設を背景に細々ながら反対運動をしてきたそうだ。事故直後は、多く人が相談に尋ねてきたなか、避難を勧めたそうだ。事故後、我々はどうすればいいのかといろいろな人と話し合ったという。一企業（東京電力）が起こした事故だから普通なら直ちに処分を受けるはずだが、検察は起訴・裁判を起さなかったことを問題と捉え、裁判を起すためには「告訴」という方法があると考えたそうだ。様々な勉強会を経て告訴の手続きを進めたとのこと。福島原発告訴団は原発事故により被害を受けた住民で構成され、原発事故を起こし被害を拡大させた責任者たちの刑事裁判を求めて12年6月、福島地方検察庁へ告訴を行い、検察庁が全

員を不起訴とするも検察審査会は強制起訴を決定して、その後17年6月30日に初公判が開かれた。現在でも刑事裁判は続いており、多くのひとを巻き込みながら争っていると伺った。

10:30～11:30 元川内村議会議員聞き取り（福島県田村郡三春町）



田村さん



聞き取りの様子

西山千嘉子さん（元川内村議会議員）から、主に村議時代の活動についてお話を伺った。平成19年～23年まで福島県川内村の議員をしており、震災前は特に税金の無駄遣いについて追及していたという。次第に、そもそもの議会という構造自体に疑問を抱くようになったそうだ。震災時は、3月議会の最終日だったという。震災後は、反原発の立場から、村長選挙に立候補したり、国内外で講演を行ったりしているとのこと。原発事故は国内だけの問題にとどまらない世界的な問題であり、国外からの情報を取り込む必要があると仰られた。また、震災を契機に自治体における意思決定のシステムを再考する必要があると伺った。

12:00～13:00 産直販売所えすぺり（福島県田村郡三春町桜ヶ丘3）



大河原さん



聞き取りの様子

大河原さん（えすぺりご主人）に、震災前の生活や震災後直売所を始めた経緯について伺った。震災前は有機農業をしており、50軒ぐらいの顧客があったという。震災後、県の方から野菜の出荷の規制がかかり、その後とれた野菜から放射能が検出されたそうだ。その情報を直ちに公開したところ問い合わせが相次ぎ、最終的には震災前の1/3に減ってしまったとのこと。そのような厳しい状況の中、放射線量を明示した直売所が必要なのではないかと考え、夫婦で用地を探すところから始め、親戚や知人からのお金集めに奮闘して、やっとお店を構えたそうだ。営業のノウハウ不足や野菜の単価の低下など課題は多いが、農家が元気になれるように頑張っていきたいと今後の展望を伺った。

13:30～15:00 コミュタン福島ー福島県立環境創造センター

(福島県田村郡三春町深作 10 番 2)



模型を囲んで



見学の様子

佐々木清さん（コミュタン福島教育ディレクター）から、館内を案内して頂いた。本施設は、市民の不安や疑問に答えるべく、放射線や環境問題を身近な視点から理解を深めることを目的としているとのこと。最初に、福島原発を再現した模型による原発事故の説明をして頂いた後、放射線のしくみや福島環境の除染状況に関する展示などをご説明頂いた。また、本施設で進めている子どもを対象とした放射線教育の現状についてもご紹介頂いた。

19:30～21:00 農家民宿（塔前の家）（福島県南相馬市鹿島区北海老字大森 106-1）



ご夫婦のお話



集合写真

斎藤さんご夫妻（塔前の家経営者）から、震災時の状況や避難生活、震災後の農家民宿の営みなどについてお話頂いた。震災前から農家民宿を営んでいたそうだ。震災時、家には津波が襲い、2階に避難して間一髪で助かったそうだ。震災の混乱の最中、新潟県に避難し、3カ月ほど避難所生活だったという。避難所には多くの人が避難していてスペースがほとんどなく、体力的にも精神的にも大変ご苦労されたとのこと。避難住宅に移ったのち、市の補助金を申請するなどして、新たな場所で農家民宿を再開されたとのこと。

1月14日（日）3日目

9:00～10:00 南相馬ウインドファーム（南相馬市鹿島区南海老、北右田、南右田地区）



見学の様子



集合写真

武山剛さん（南相馬市復興企画部新エネルギー推進課）から、南相馬市が推進する風力発電の概況と設備についてご説明頂いた。本風力発電所は、高さ131m、ブレード直径92m、発電所出力9,400kW（2,350kW×4基）のドイツ・エネルコン社製であり、平成30年3月に運転開始予定であるという。事業主体である株式会社南相馬サステナジーと南相馬市は土地賃貸借契約を結んでいるとのこと。南相馬市としては、風力発電を復興プロジェクトの目玉としており、最終的には再生可能エネルギーで市内の電力をすべてを賄う計画だそうだ。

11:00～12:30 南相馬ソーラー・アグリパーク（福島県南相馬市原町区泉前向15）



半谷さん



聞き取りの様子

半谷栄寿さん（一般社団法人あすびと福島代表理事）から、一般社団法人あすびと福島の取り組みならびにその取り組みの一環である南相馬ソーラー・アグリパークについてご説明頂いた。あすびと福島では、長期を要する福島の復興のために、体験学習やオープンスクールなどを通して、次代を担う若い社会起業家＝「福島型アントレプレナー」の早期育成に取り組んでいるとのこと。ソーラー・アグリパークは、太陽光発電や植物工場などを備え、幅広い学びの場を提供すると共に、再生可能エネルギーの普及啓発を行っているという。

連絡・問い合わせ先：irunga1205@yahoo.co.jp（東京農工大学大学院修士2年、小松淳一）